

貝リンガル情報

(アコヤガイ・立神浦 赤崎)

R5-18号

データ提供：(株)ミキモト

問い合わせ先：三重県水産研究所 養殖・環境研究課

TEL 0599-53-0016 FAX 0599-53-2225

【概況（9月5日 0時～9月6日 0時）】

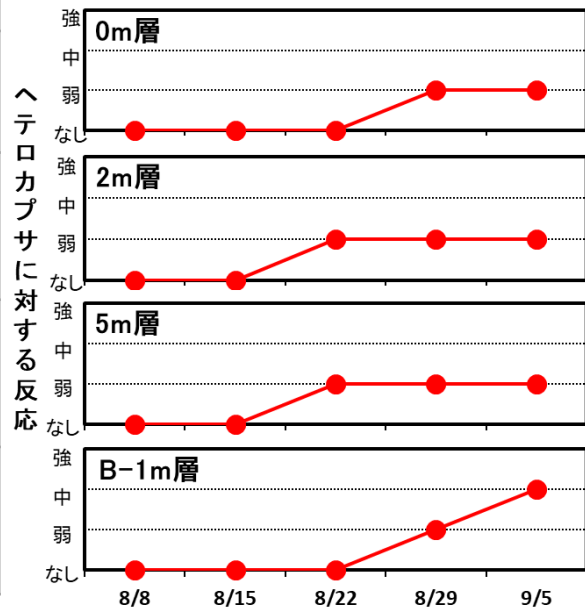
- ・ヘテロカプサに対する反応が、0m、2m及び5m層で『弱』、B-1m層で『中』が確認されました。
- ・ヘテロカプサは、9月4日の同地点での採水サンプル1mLあたり、0mで6細胞、2mで6細胞、5mで1細胞が確認されました。

【おしらせ】次号は、9月13日（水）の予定です。

【今回の測定結果】

水深	ヘテロカプサに対する反応※	備考
0m	弱	8/30(7-14時), 8/31(7-12時), 9/4(7-10時, 11-12時), 9/5(5-11時)にヘテロカプサに対する反応がみられました。
2m	弱	8/30(7-13時), 8/31(9-13時), 9/1(9-13時), 9/2(9-12時, 13-14時), 9/4(8-12時), 9/5(6-7時, 11-14時)にヘテロカプサに対する反応がみられました。
5m	弱	8/30(9-10時), 8/31(5-6時), 9/1(12-14, 15-17時), 9/2(13-16時), 9/3(11-16時), 9/4(2-4時), 9/5(15-17時)にヘテロカプサに対する反応がみられました。
B-1m	中	8/30(7-8時), 8/31(5-7時), 9/1(15-17時), 9/2(13-16時), 9/3(9-13時), 9/5(7-12時, 14-17時)にヘテロカプサに対する反応がみられました。

【直近の状況（5回分）】



※ 指標と殻体運動（波形の例は、WEBに掲載しています。）

強：連続的なスパイク波形と閉殻がみられる。
⇒ 極度に強いストレスがあり、短時間でへい死の危険がある。中：連続的なスパイク波形がみられる。
⇒ 強いストレスがあり、長く続くことと衰弱・へい死の危険がある。弱：スパイク波形の集中が時折みられる。
⇒ 貝にストレスがかかりはじめる。垂下層の調整や避難の検討を。

なし：応答なし ⇒ 影響なし。

●本紙について

- ・英虞湾における赤潮被害の軽減を目的とし、(株)ミキモトが開発した貝リンガル（二枚貝を用いた生物センサー）の情報を提供しています。
- ・毎週水曜日に発行します。また、臨時で発行することがあります。

●貝リンガルについて

- ・二枚貝の殻体運動（殻の開閉）をセンサーで測定し、貝の生理状態（赤潮・貧酸素などの影響）を陸上で把握できます。
- ・英虞湾では、有害プランクトンのヘテロカプサ・サーキュラリスキーマの影響を特に重要視しています。（センサーは、アコヤガイにつけられています。）

●センサーの設置場所と水深

- ・湾奥部（立神浦赤崎）の0・2・5・B-1m層に設置しています。
- ・B-1mとは海底上1mで、赤崎では約7mです。

●利用上の注意点

- ・海況は、場所・時間・水深で異なります。本情報は湾全体のアコヤガイの生理状態を、必ずしも示すものではありません。
- ・本情報だけでなく「アコヤ養殖環境情報」等で、プランクトンの出現状況や海況を把握し、被害対策をしてください。

